



NICU（新生児集中治療室）の紹介

小児科部長(NICU担当)：山本 順子

いまでこそ、比較的注目されるようになった周産期・新生児医療の分野ではありますが、当院における新生児医療の歴史は古く、25年ほど前からすでに地域の周産期医療に必要とされる大きな役割を担ってきました。その新生児の治療をおこなっているのが新生児集中治療室（NICU：neonatal intensive care unit）です。現在NICUは12床ですが、NICUでの急性期治療ののち、退院までの治療、管理を行っていくGCU（Growing care unit）が20床あり、常にフル稼働の状態です。

ここでの新生児の入院のほとんどが出生後すぐの緊急入院であるため、院内・外の産科と連携を取りながら24時間、迅速に対応可能な体制をとっております。年間300例以上の入院がありますが院内出生と院外出生の入院は約半数ずつ、年間150例ほどは院外出生であり当院の小児科医が往診に伺い、当院までの救急搬送を行っています。

最近は特に胎内診断の発達により、当院産科への紹介も増えてきており、それに伴い出生前からの介入（プレネイタルビジット）も重要となってきました。

さて、新生児の疾患は早産児（未熟児）が最も多いのですが、



日本の未熟児の（intact survivalを含めた）救命率は世界一と言われておりますが、国内でも当科の治療成績はトップレベルであり、全身状態が急変しやすい新生児のわずかな異状の発見と早期治療、きめ細やかなケアなどスタッフ全員でのチーム医療が確立しているからと考えます。また当科の特徴は 未熟児の治療のみならず、先天性の心臓疾患、消化器疾患、脳神経系疾患などの外科治療も可能、いわばほとんどすべての新生児疾患の治療が可能な市内随一の施設であり他科の先生と連携をとりながら治療にあたっています。このため県内はもちろん、県外からの入院依頼も多く、ヘリコプターでの搬送も行っています。



その他、地域の産科に出向き、正常新生児の健診や新生児蘇生法（NCPR）の講習会を開くなどの活動も行っています。



今後も、安心してお産ができるよう、産科の先生との密な連携と迅速な対応で、地域の皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思えます。

少しリスクのある出産の立ち会いや、なんとなく気になる赤ちゃんについての相談などでも構いません、いつでもお気軽にご相談ください。

小児科部長（NICU担当）：山本 順子

